

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-75	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	文国・706	文学国語		

1. 編修の基本方針

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。
- 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるとともに、文化の担い手としての自覚を養う。
- 創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合うことができる確かな文章の創作力を育成する。
- 作品や文章に表現されたものを読み取る、確かな読解力を育成する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
文学の扉	✓ 「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」を合わせ持ち虎となった『山月記』の主人公の性情について考察を深める中で、真理を求めて豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号)	p. 9～p. 30
第一章		
平成の小説	✓ 母と子の関係を描いた『鍋セット』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号) ✓ 父と子の関係を描いた『無用の人』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号)	p. 32～p. 67
昭和後期の小説	✓ 『ナイン』における野球団の仲間たちの心情の考察を通して、自他の敬愛と協力を重んずる精神を養えるようにした。(第3号) ✓ 父の目線から息子を描く『三月の風』の読解を通して、自他の敬愛と豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号・第3号)	p. 68～p. 99
昭和初期の小説	✓ 社会から隔絶した岩屋に閉じ込められた山椒魚を描いた『山椒魚』の読解を通して、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにした。(第3号) ✓ 自己の真価を確認できずに苦悩する『水仙』の登場人物の心情を読み取ることを通して、個人の価値を尊重する態度を養えるようにした。(第2号)	p. 100～p. 143

大正の小説	✓ 人間のエゴイズムや罪を見つめた『こころ』の読解を通して、道徳心を培うとともに、正義と責任、自他の敬愛の心をはぐくむことができるようにした。（第1号・第3号）	p. 144～p. 199
詩歌	✓ 近代以降のさまざまな詩歌に触れることで、伝統的な我が国の言語文化の理解が深まるよう配慮するとともに、生命や自然、自他の敬愛などを詠った詩歌の読解を通して、生命・自然を尊ぶ心、公共の精神をはぐくむ心が養えるようにした。（第3号・第4号・第5号） ✓ 短歌・俳句の創作を通じて、創造性を培うことができるようにした。（第2号）	p. 200～p. 223
文学的文章の創作	✓ 文学的文章の創作活動を通して、創造性を培うことができるようにした。（第2号）	p. 224～p. 237
古典と現代語訳	✓ 『源氏物語』とそのさまざまな現代語訳を読むことを通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。（第5号）	p. 238～p. 251
文学評論	✓ 文学評論の読解を通じて、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。（第1号）	p. 252～p. 274
第二章		
平成の小説	✓ 死を見つめる目をした人物との出会いと交流を描いた『ひよこの眼』を読むことで、生命を尊ぶ態度を養えるようにした。（第4号） ✓ 『クリーム』における「中心がいくつもあって、しかも外周を持たない円」という難解な問いについて考えをめぐらせることで、真理を求める態度を養えるようにした。（第1号）	p. 276～p. 317
昭和中期の小説	✓ 安部公房の前衛的作品『赤い繭』の読解を通して、真理を求める態度を養えるようにした。（第1号） ✓ 太平洋戦争末期のフィリピンの戦いを描いた『野火』の読解を通して、戦争の悲惨さを理解し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした。（第5号）	p. 318～p. 351
大正の小説	✓ 感覚を働かせて想像の世界に身を浸らせる主人公を描いた『檸檬』の読解を通して、豊かな情操と創造性を培えるようにした。（第1号・第2号） ✓ 獣に変身した『件』における「私」の心情を追うことにより、真理を求める態度を養えるようにした。（第1号）	p. 352～p. 387
明治の小説	✓ 文語で書かれた『舞姫』に触れることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。（第5号）	p. 388～p. 427

海外の小説	✓ 海外の小説に触れることにより、他国を尊重する態度を養うことができたようにした。 (第5号)	p. 428～p. 449
戯曲	✓ 家族を捨てて出奔した父親が帰還する家族ドラマ『父帰る』を読むことで、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養えるようにした。 (第3号)	p. 450～p. 466

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、知っておきたい国語的教養に関するコラム（「ズームアップ」「解説」）を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末の設問では、我が国の言語文化を多角的な視点から考察できる設問を多数用意した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-75	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	文国・706	文学国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 収録教材

- ① 我が国の言語文化の理解が深められるよう、近代から現代に至る幅広い文学的文章を豊富に収録した。
- ② 本編教材との比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、本編教材の理解がより深められるようにした。

探究の扉
—— 比べ読み ——

忠直卿行状記
菊池 寛

忠直卿が、奥殿へ続く長廊下へ出ると、冷たい初秋の風が頬に快かった。見ると、外は十日ばかりの薄月夜で、萩の花がほの白く咲きこぼれている。虫の声さえ聞こえてくる。

忠直卿は、庭へ下りてみたくなった。奥殿からの迎いの侍女たちを帰して、小姓を一人連れたまま、庭に下り立った。庭の面には、夜露がしつとりと降りている。微かな月光が城下の街を、玲瓏と澄み渡る夜の大気のうちに、墨絵のごとく浮かべている。

忠直卿は久しぶりに、こうした静寂の境に身を置くことを欣んだ。天地は寂然として静かである。ただ彼が見捨ててきた城中の大広間からは、雑然たる饗宴の叫びが洩れて

くる。それも彼が座を立つてとみえ、吾妻拳を打つ掛け声。それもよほどの間隔があるのではない。

忠直卿は萩の中の小径を伝丘にある四阿へと、入った。かな月の光を含んでいる空気。忠直卿は、今までの大名生活とのないような、感傷的な心に小半刻を過ごした。

すると、ふと人声が聞こえる。声のみが淋しかったところに

探究の扉
—— 比べ読み ——

秘やかな楽しみ
梶井基次郎

一顆の檸檬を買ひ来て、
それを玩ぶ男あり、
電車の中にはマントの上に、
道行く時は手拭の間に、
そを見 そを嗅げば、
嬉しさに心にあふつ、
悲しくも友に離れて
ひとり 唯独り、我が立つは 丸善の洋書棚の前、
セザンヌはなく、レンブラントはもち去られ、

「檸檬」には、その原型と、
との違いを意識しながら、

- ③ 現代に受け継がれる伝統的な言語文化の理解を深めるため、与謝野晶子・谷崎潤一郎・角田光代らの『源氏物語』現代語訳を掲載した。

古典と現代語訳

源氏物語

登場人物
※光源氏：帝と「桐壺の更衣」の子。第一皇子（帝の三歳で母を亡くした。ここでは「若宮」とは後の通称。

日本文学史上最高の物語との呼び声高い『源氏物語』に絶大な影響を与えており、近現代作家による口述ここでは、そのうち三つを読んで比較してみよう。光源氏が宮中に入り、やがてその美貌と才能で周囲面である。

与謝野晶子 訳

幾月かの後に第二の皇子が宮中へお入りになった。ごく小さい時ですらこの世のものはお見えにならぬ御美貌の備わった方であったが、今はまた一層輝く程のものに見えた。

その翌年立太子のことがあった。帝の思召しは第二の皇子にあつたが、誰という後見の人が無く、また誰もが肯定しないことであるのを悟っておいでになつて、却つてその地位は若宮の前途を危険にするものであるとお思いになつて、御心中を誰にもお洩らしにならなかつた。東宮におなりになったのは第一親王である。この結果を見て、あれほどの御愛子でもやはり太子にはお出来にならないのだと世間も言い、弘徽殿の

(2) コラム的要素

① 作家の略歴を知ることができるとともに、読書活動にもつなげることができる「作者解説」コーナーを設けた。

作者解説

軽妙で痛烈な風刺 井上ひさし



1868 明治 大正 昭和 昭和(戦後) 平成 令和

1912 1926 1945 1989

1934(昭和9)年、山形県に生まれる。仙台の高校に進学し、野球や映画などに力を注いで過ごした。後年、高校生活をもとにした小説『青葉繁れる』を発表している。高校卒業後は上智大学ドイツ文学科に入学したが、東京での大学生活になじめず、母の住む岩手県釜石市に戻る。休学して二年間仕事をした後、上智大学フランス語学科に復学し、大学生生活の傍ら劇場で働いた。そして、一九五八(昭和三十三年)は、戯曲『うかうか三ッ子、ちよろちよろ四ッ子』で芸術祭脚本奨励賞を受賞した。

1960(昭和三十三年)年に大学を卒業した後は、まず放送作家として活動する。一九六四(昭和三十九年)放送開始のテレビ人形劇『ひょっこりひょうたん島』共作がヒット

作者解説

近代文学の開拓者 夏目漱石



1868 明治 大正 昭和 昭和(戦後) 平成 令和

1912 1926 1945 1989

1867(慶応三)年、江戸牛込馬場下町で、五男三女の末子として生まれる。本名金之助。生後すぐに里子に出され、一旦は連れ戻されたものの、一歳で再び父の友人堀原昌之助のもとへ養子に出された。二十一歳のときに夏目家に復籍。少年時代の漱石は、漢籍や小説に親しみ、

1890(明治三)年、現在の東京大学にあたる帝国大学英文科に入学。この頃、生涯の友となる正岡子規とも出会った。

1895(明治三)年、愛媛県尋常中学校の英語教師として松山に赴任。この地で子規と再会した漱石は、『愚陀佛庵』と名づけた家で一時、子規との共同生活を送ったが、松山での生活は一年で終わりを迎えた。翌年、熊本第五高等学校に赴任し、中根鏡子と結婚する。

② 教材の読解から発展させて、我が国の言語文化についての知識や理解を深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

ズームアップ

平成期における 女性作家の活躍

1 躍動する女性作家たち

一九八七(昭和六十二年)年に発表された吉本ばななのデビュー作『キッチン』は、世界各国で翻訳され、同作を収録した単行本も記録的なセールスを記録。吉本ばなな作品が一九八九(平成元年)のベストセラーランキングの上位を独占するなど、平成の初期は空前の吉本ばななブームといえた。

こうした吉本ばななの登場にも象徴されるように、平成期は女性作家の活躍が目覚ましい時代であったといえる。例えば、一九八九(平成元年)から二〇一八(平成三十二年)の平成期における芥川賞受賞者は全部で六十九人だが、このうち二十八人が女性作家である。同じ三十年間でも、芥川賞が創設された一九三五(昭和十)年から一九六四(昭和三十九年)は、芥川賞受賞



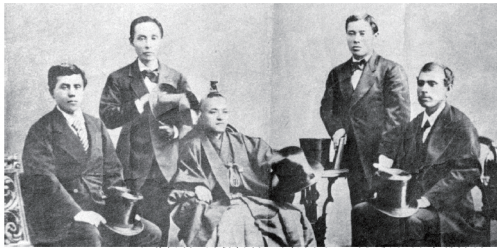
「キッチン」 吉本ばなな

ズームアップ

鷗外と漱石 それぞれの留学

1 明治時代の幕開け

一八六八(慶応三)年、王政復古の大号令が出されて鎌倉幕府から続いてきた武家政治が終わり、明治政府が樹立された。新政府は近代的な国家体制を作るため、「富国強兵」「殖産興業」をスローガンに先進的な西洋文明を積極的に取り入れる。「お雇い外国人」と呼ばれる西洋人指導者や技術者を政治・軍事・産業・建築・科学・美術などの



岩倉使節団(左から木戸孝允・山口尚芳・岩倉具視・伊藤博文・大久保利通)

③ 体系的な読解学習のために「チェックポイント」コーナーを設けて、文学的文章の読解の手順を施した。

チェックポイント「4」

表現の仕方に注目する

道具の取扱説明書を読むときは、一般的に、「何を書いているか」だけが重要である。つまり、その道具の使い方を理解することだけが目的なのであり、その目的さえ速やかに果たせるならば、どのような表現で書かれているかと問題にはならない。これに対し、小説を読むときは、「どのように書いているか」つまり表現の仕方に注目することが大切になる。小説は、作者が一定の意図のもとに表現を練り上げた、言葉の芸術だからである。小説においては、読むこと自体が「一つの目的だといえる」。

「どのように書いているか」を知り、作品への理解を深めるには、次のことが重要である。

- 1 注意深く文章を読み、特に注目すべき部分を探す
- 2 その部分の言葉そのものを精読する
- 3 その表現が「別の表現だったら」を考える

チェックポイント「5」

隠れた心情まで読み取る

小説で登場人物の心情を読み取るには、まず心情を表す言葉に注目することが基本となる。①「チェックポイント(2)」が明示されるとは限らない。「秋」が寂しさを、「雨」が悲しさを暗示する、といった場合もある。さらに、作者が文章を「どのように書いているか」④「チェックポイント(4)」、その表現の仕方そのものが、何らかの心情をほのめかすこともある。こうした心情にも思いをめぐらし、小説をより深く味わおう。

1 「どのように書いているか」に注目する

2 隠れた心情に思いをめぐらす

作品例

「私」は病弱で気弱な未就学男児。いつも祖母に手厚く保護されているが、以下の場面で、初めてお国さんと二人きりで遊ぶ。お国さんは、「私」にとって初めての友達であった。

(3) デジタルコンテンツ

① 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

2. 対照表

* 配当時数における丸付き数字は「A 書くこと」の時数を示す。

図書の構成・内容		学習指導要領の内容						該当箇所 [頁]	配当 時数
単元	教材	知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等					
		(1)	(2)	A 書くこと (1) (2)		B 読むこと (1) (2)			
文学の扉	【チェックポイント1】小説とはどのようなものか	ウ	ア・イ					9	5
	山月記	エ				ア・イ・ウ・オ・キ	ア	10	
	【作者解説】中島敦		イ					24	
	【探究の扉】人虎伝	ウ・エ				キ	ア	26	
第一章									
平成の小説	鍋セット	ア				ア・イ・カ	ア	32	8
	【作者解説】角田光代		イ					49	
	無用の人	イ				ア・イ・エ・カ	ア	50	
	【作者解説】原田マハ		イ					65	
	【ズームアップ】平成期における女性作家の活躍		ア・イ					66	
昭和後期の小説	ナイン	イ・エ				イ・ウ	ア	68	8
	【作者解説】井上ひさし		イ					82	
	三月の風	エ				ア・イ・エ・カ	ア	84	
	【作者解説】阿部昭		イ					96	
	【ズームアップ】大衆が支持した文学		ア・イ					98	
昭和初期の小説	山椒魚	イ				ア・イ・オ・カ	ア	100	8
	【作者解説】井伏鱒二		イ					112	
	水仙	ウ・エ				イ・ウ・エ・オ・キ	ア	114	
	【作者解説】太宰治		イ					132	
	【探究の扉】忠直卿行状記					キ	ア	134	
	【ズームアップ】太宰治と師と変身		ア・イ					140	
	【チェックポイント2】心情を読み取る	ア						142	
	こころ	エ				ア・イ・オ・キ	ア	144	
大正の小説	【作者解説】夏目漱石		イ					188	10
	【探究の扉】現代日本の開化					キ	イ・カ	190	
	【ズームアップ】漱石のマグネティズム		ア・イ					198	
	小諸なる古城のほとり	エ				イ・ウ	ア	200	
詩歌	【作者解説】島崎藤村		イ					202	8
	永訣の朝	エ				イ・ウ・オ・キ	ア・カ	204	
	【作者解説】宮澤賢治		イ					208	
	表札	エ				ア・イ・オ	ア・カ	210	
	発車	エ				イ・ウ・カ	ア	212	
	短歌			ア・ウ・エ	ア			214	
	俳句			ア・ウ・エ	ア			218	
	【チェックポイント3】詩歌を味わう	ア・イ・ウ・エ	ア・イ					222	
	文学的文章の創作	物語のおわり	エ		イ・エ	イ・エ			
【作者解説】湊かなえ			イ					236	
【ズームアップ】グループで創作活動にチャレンジ!			ア・イ	イ・エ	イ・エ			237	
古典と現代語訳	源氏物語		ア					238	8
	与謝野晶子 訳		ア			ウ・エ・キ	ア	240	
	谷崎潤一郎 訳		ア			ウ・エ・キ	ア	242	
	角田光代 訳		ア			ウ・エ・キ	ア	244	
	紫式部(原文)		ア			ウ・エ・キ	ア	246	
	【探究の扉】窈窕源氏物語		ア			ウ・エ・キ	ア	248	
	文学評論	文学のふるさと	エ				ウ・カ	ア	
【作者解説】坂口安吾		イ					262		
演技する「私」	イ				ウ・カ	ア・イ	264		
【ズームアップ】文学とはいかなるものぞ		ア・イ					272		
第二章									
平成の小説	ひよこの眼	イ				ア・イ	ア	276	8
	【作者解説】山田詠美		イ					293	
	クリーム	ア・イ・エ				イ・ウ・エ	ア	294	
	【作者解説】村上春樹		イ					314	
	【ズームアップ】日本文学は世界の文学たり得るか?		ア・イ					316	
昭和中期の小説	赤い繭	エ				ア・イ・ウ・エ	ア	318	8
	【作者解説】安部公房		イ					324	
	野火	イ・エ				ア・イ・カ	ア	326	
	【作者解説】大岡昇平		イ					346	
	【ズームアップ】戦後の文学		ア・イ					348	
	【チェックポイント4】表現の仕方に注目する	ア・ウ・エ						350	

大正の小説	檸檬	エ			イ・ウ・オ・カ・キ	ア	352	8
	【作者解説】梶井基次郎		イ				364	
	【探究の扉】秘やかな楽しみ				キ	ア	366	
	【探究の扉】瀬山の話				キ	ア	368	
	件	エ			ア・イ・ウ・カ	ア	372	
	【作者解説】内田百閒		イ				384	
	【ズームアップ】憧れになる作家たち		ア・イ				386	
明治の小説	舞姫	エ			ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・カ	388	10
	【作者解説】森鷗外		イ				422	
	【ズームアップ】鷗外と漱石それぞれの留学		ア・イ				424	
	【チェックポイント】隠れた心情まで読み取る	ア・エ	イ				426	
		エ			イ・エ・カ	ア	428	
海外の小説	【作者解説】フランツ・カフカ		イ				433	8
	藤野先生				イ・オ・キ	ア	434	
	【作者解説】鲁迅		イ				444	
	【探究の扉】『呐喊』自序				キ	ア	445	
	【ズームアップ】透明人間の〈声〉を聞く		ア・イ				448	
	父帰る	ア			ア・イ・ウ・カ	ア	450	
	【作者解説】菊池寛		イ				464	
戯曲	【ズームアップ】戯曲鑑賞の視点		ア・イ				466	5
配当時数合計		A 書くこと [丸付き数字は「書くこと」の配当時数を示す]						30
		B 読むこと						110
		合計						140